

著名人にみる家族関係 —— 日本経済新聞「私の履歴書」より（第1報）

上野学園大短大 遠山千代子

【目的】伝記とりわけ自叙伝は、著者の人柄を余すところなく伝えるものであり、非常に興味深いものがある。本報は、日本の各界で活躍し文化の発展に貢献した人々の、成長過程における家族関係からの影響、およびその結果としての人生観・家庭観・教育観などを分析することを目的とする。

【方法】日本経済新聞社が刊行した『私の履歴書 文化人』（全20巻）を資料とした。これは、日本経済新聞が文化欄に連載している「私の履歴書」の中から、作家、画家、芸能人、学者などを中心に編集したものである。

【結果】新聞掲載時期は昭和31～57年、掲載者数は150名、掲載時の年齢は53～97歳、出生時期は明治2年～大正6年、性別は男140名、女10名、専門分野別では大まかに4分類すると作家42名、画家30名、芸能人37名、学者41名である。

- ①「私」の履歴書といっても、父母や祖父母のみならず先祖まで遡つての記述が目だつ。
- ②本人は結果的には長寿の部類に入るであろうが、幼少時には病弱であった者が多い。
- ③「家」制度の時代を反映してか、養子縁組みが多く見られる。出生順位は重要である。
- ④兄弟姉妹は多いが、まさに多産多死で、本人は貴重な生き残りの存在である。
- ⑤生家の家運や経済状態は、概して、元来は隆盛かつ豊かであったが、その後時代の急激な変化の中で、衰退し下降傾向にある。これは本人の進路選択に影響を与えがちである。
- ⑥父母の言動は何よりも重要で影響力が大であるが、これに劣らず祖父母の姿も幼少時の鮮烈な印象として残り、本人の人格形成に一役買っている。